

創刊の辞

佐々 保雄

日韓トンネル研究会会長・北海道大学名誉教授



去る4月、本会は「日韓トンネル時報」を刊行致しました。これは、会の動静、即ち会の行事とその経過、部会や委員会の活動、調査・研究の進行状況などを、会員の皆さんにお伝えして、会への御理解を得ると共に、会員の参加と交流とを図り、会の目的を達成する為の御協力を得ることにありました。

この度、ここに「日韓トンネル研究」を公刊することになりました。これは、会の事業として行なって参りました調査や研究の成果を公けにし、日韓トンネルの可能性を検討し、討議の場を提供しようとするものであります。

その刊行は、本会の現状から見まして、年1〜2回ぐらいになることでしょう。将来業績が続々と上って発表する事項が多くなった暁には、季刊と言うこともあり得ますし、そうした日の近いことが望まれます。

記事はしばらくの間は、関連区域の海陸の地形や地質など基礎的な事柄が多くなりましょうし、また将来の環境への影響を究める第一歩として、現況の把握なども、当面の問題として取り上げられることになりましょう。トンネル自身の新時代

にふさわしい工法については、次々と画期的な着想が提示されることと思います。

また近い将来に開発される走体とそれによる交通体系、これに適応したトンネルや橋梁の問題も長距離海底トンネルにおける人工島構築の問題と共に論議されることでしょう。

一方、日韓トンネルとそれを一環とするユーラシアハイウェイの世界における意義と使命、日韓トンネル建設の理念、日韓両国における得失、効果、影響などは、最も真剣に取り組みねばならぬ問題で、本誌が討論の為その紙面を公開することは、本誌の存在理由の第一とすべき点でありましょう。

また同時に、国内外の海底トンネル計画の資料を集め、本トンネル計画に対し、参考に資することも考えて居ります。

ともあれ、本誌が会員諸氏に多くの問題と資料を提示し、同時に会員によって、読むに値する誌面が作られるならば、本誌の使命は達せられると言えましょう。そうあらんことを期待して止まぬ次第であります。